

地学と切手



中国の
石油資源
切手

P. Q.

ここに掲げた切手は1964年に中華人民共和国で発行された石油の探査から製品を送り出すまでの過程を示す多色刷からなる5種1組の切手である。画面の中央下にその説明がついており探査から製品になるまでのおもなる過程を額面の低いものから高額のものへと順序に示している。4分には「地震勘探」と書かれ人工地震による油田構造調査のための観測車、発破係員、発破孔のさくれつ状況および発破孔を掘るための試錐車が8分には「钻井」と書かれ石油掘さくのための巨大なロータリー試錐機と「采油」と書かれた採油井の孔口に取付けられる装置で油の出方を規制するクリスマスツリーと油井から出てくるガス、油、水を分離する分離塔が10分には「炼油」と書かれ原油を精製する蒸馏塔が20分には「运油」と書かれ製品を運ぶタンカーで画かれている。

中国大陸の石油資源については20世紀前半までは大規模のものはないと考えられてきた。しかし1949年の中華人民共和国の成立以来石油の探鉱開発が進み1969年の生産量は2,000万tを超え自給体制を確立した。このなかでもっとも話題となったのは大慶油田の発見である。

大慶油田は黒龍江省にあってハルピンの西方にあたり

松花江流域の一大平原（松遼平原）に位置する。発見の端緒となったのは空中探査だったとされており1956年にはソ連の技術援助による地震探査が行なわれ1958年から中国による地質調査が行なわれた。1962年から生産が開始され1964年には本格化するとともに1970年代には1,000万tの産出に達したものと推察される。油田の実態については興味ある問題が残されているが石油は巨大な内陸湖盆中に堆積した白堊紀層中に含まれその白堊紀層の厚さは4,000~5,000mにも達するといわれる。原油は硫黄分0.1%の良質油である。

大慶油田は現在は中国第一の油田であるとともに油田全体が都市人民公社となっており「工は大慶に学べ」がひとつのスローガンともなった。学校、研究機関、工場などが設立されており新中国発展の原動力になっている。

その他では玉門油田—西北地区にあって現在でも重要な油田—勝利油田—山東省にあって1965年から本格的に稼働されており、渤海湾の海底油田に発展するものと思われる—クラマイ油田—新疆にあって現在では大慶油田に次ぐ—などがある。

（注）参考資料 工藤広忠：中華人民共和国におけるエネルギー資源
日本の科学と技術 '72/1)